



※参考値出所: 日本病院会 2015 年度 QI プロジェクト結果報告 No11 特定術式における手術開始前 1 時間以内の予防的抗菌薬投与率

■ ガイドラインに則り感染症リスクに備える

本指標は、手術後に発生しうる手術部位感染（SSI）の予防に取り組んでいるかどうかを示しております。手術部位からの感染症が発生する事で入院期間の延長とそれに伴う医療費が増加し患者さんへの負担が増すことになってしまいますが適切なタイミングで抗菌薬を投与し、血中及び組織中の抗菌薬濃度を適切に保つ事で予防する事ができます。荻窪病院の数値は 2013 年以前は 60%台を推移していましたが、改善を重ねた結果、現在では特定手術の約 97%において手術開始（切開開始）前 1 時間以内に抗菌薬の投与を行っております。

院内の感染対策は ICT（感染制御チーム）が主に担当しており手指衛生に関する啓発や注意喚起、年 2 回の法定講習など院内の感染症リスクに対する全般の活動を行います。また、中野区と杉並区の医療機関と連携して相互にラウンド（監査）を実施することで感染対策の精度向上に努めています。



2016.2 日本環境感染学会での発表の様子
(演者：荻窪病院 ICD 藤井 奨)

特定術式＝冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術、子宮全摘徐術